

■大川小語り部の話に感涙

高橋としみ 67歳

(石巻市・団体職員)

語り部の方のお話を聞きたくて、石巻市内の東日本大震災遺構「大川小」を訪ねました。人が集まり始め「どちらから?」と尋ねられました。市内と答え、私も相手の方に尋ねると「秋田から」。驚きました。月に1度の会に毎回いらしているとか。

もう一人にも声をかけられました。毎回来ている方が多く、私のような初顔は目を引いたのかも。その方は東京だそうで、またまた驚きです。地元より他から来る方が多いとも。皆さんの熱意を感じます。

やはり、語り部の方のお話を直接お聞きするのが、一番かなと思いました。み

な遺族の方なので真実を知ることが大切です。語り部の佐藤敏郎さんが震災3日後に大川小に行くと、たくさんのランドセルが並べてあり、ブルーシートに包まれたお嬢さんを見つけた、と話したところで、私は涙が出て困りました。

語り部の方々は誰の悪口も言いません。冷静に真実を語っていると思います。防災がマニュアルだけにならないように、いざというとき間違わずに逃げてハッピーエンドになるように。

校歌のタイトル「未来をひらく」は、子どもたちが描いた壁画の中央にも書かれています。まさに未来をひらくように活動を続けたい、と佐藤さんは話を結びました。